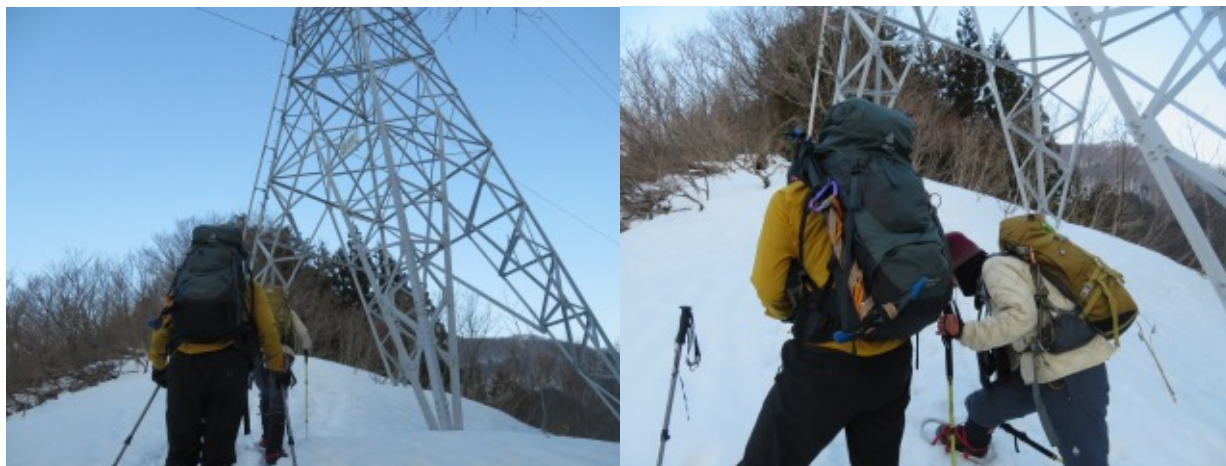


長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行番. NO. 2035	
日 時 2024年3月15日(金) 晴・風なし	
山 域 上越・タカマタギ(1529m)の棒立山(1420m)下で撤退	
コース 毛渡沢橋 5:30-尾根取り付き 6:00-鉄塔 6:14-ピーク 1040m-美しいブナと雪庇の尾根-棒立山下・最高到達点(1360m) 10:42-鉄塔-毛渡沢橋 14:30	
標高差 毛渡沢橋約544m~最高到達点1360m=約816m	
難易度 非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
美しいブナと、延々と続くラッセル地獄	
ど〜が〜 https://susono-reihou.babyblue.jp/00-47mp4.mp4	
参加者 後藤(77/1)、加藤、山田=3名	

14日、久しぶりの上越だった。「・・・長いトンネルを抜けると、そこは雪国だった・・・」今年は何処も「雪が少ない」だったが、3月に入り、毎週のように南岸低気圧が通過し、その後、冬型が続き、結果、積雪は増えた。

湯沢 IC から、明日、出発地の毛渡沢(けとさわ)橋に着いた。平日だが、車は2台。我々は1時間程下見した。群馬大ヒュッテに続くルートにトレースはなかった。雪は重くグズグズで、明日が思いやられた。



鉄塔

下見を終え、そうこうしていると、長岡市の若い衆が下山してきた。聞けば、途中で下山したという。彼はワカンでなくスノーシューだった。いずれにしても、明日は厳しい状況と判断した。

馴染みの宿着。主人のT氏・奥様は元気だった。Kが持参した、一升瓶で歓談。T氏は、今回は、雪が重く深いので、「タカマタギ」でなく、二居(ふたい)から日白山(につぱくやま)にしたらと進言してくれた。二居は、毛渡沢橋に比べ、標高差が約300m程楽だった。我々に300mは大きい。

二居からは、2018年、東谷山までスキーで上っていたが、やっぱり「タカマタギ」は、毛渡沢橋からにこだわった。宿では、先日、伊豆巡礼時、伊浜で摘んだ「初ワラビ」を食べて貰った。我々も初ワラビだったが、まだ雪深い越後では、サイコーのご馳走だったようだ。

15日、5:30 駐車場発。勿論、誰も居ない。最初からワカン。関越道・上越線を潜って、尾根に取り付く。まだ、暗かったが天気は良く風もない。上越の山々が、次第に白く光って来た。ひと上りで鉄塔着。やはり雪は深く重い。上は急登が続く。KとYのワカンが不調。まあ、ロクにワカンを履いたことがないので、不慣れは不慣れ。

Kのワカンは、御殿場のTさんの借り物。昔のワカンでフロントが持ち上がっていな



鉄塔上

いのでひっ掛かって、何度も転んだ。Yも何かワカンが靴にシックリ馴染まず、やはり歩き難い。ただ、Yのワカンは、翌日の谷川岳登山時、ロープウェイのロビーで、何気なく眺め、私が実際、履いてみたら、実は装着が、「前後逆」だった。

前回の蓼科山でも、そうだったようで難儀していた訳が分かった。ただ、その時は、よく見てやらなくて、申し訳なかった。以前、杣添尾根でアイゼンを、やはり前後逆に履いていた女子がいたが、まさか、ワカンもアリとは思わなかった。ただ、谷川岳は「観光登山」で、ワカンを使用する機会がなかったので、次回、名誉挽回です。

そんなこんなで、お二人は、転んだり・ハマったり、四苦八苦だった。ようやく、小

さな雪庇を越え、標高 1040m のピークに立った。素晴らしい景観。蒼穹に「タカマタギ」らしきピークが光っていた。ここから上は左手に雪庇が伸びていた。雪は相変わらず深く重い。今日のこの雪では、屈強な「ラッセラー」が 4～5 名必要だろう。



ピーク 1040m からピークがタカマタギ？

標高約 1100m から、ブナの巨木が現われ、イイ感じの尾根になった。しかし、トップを引いていた K が突然、「ラッセルがない！！」と叫んだ。昨日の長岡市の若い衆は、一人で頑張って上ったが、ここで、精根が尽きたのだろうか。

ここから、「地獄が始まった」。ま、雪深い新潟在住の仲間なら、どうということはないかも知れないが、兎に角、雪がない静岡在住の我々にとっては別世界。多くのラッセルは、若い Y が頑張った。頑張ったが、標高はなかなか稼げない。

実は、このルート、先日、会報を交換している、新潟魚沼市の「みちぐさハイキングクラブ」の仲間がやっていた。日時は 3/3、人数は 5 名。新潟の仲間なら、この程度では、モノとしないかも知れない。

結局、我々は、棒立山手前、標高約 1360m で力尽きた。上部は無木立の重い雪で、雪崩も気になった。

我々は、毛渡沢橋から、標高差約 816m を約 5 時間掛かった。条件・人数・経験も違うが、前述の新潟の仲間は、毛渡沢橋から棒立山まで約 2 時間で上っていた。いくら雪に慣れ親しんでいる新潟人でも、ちょっと早過ぎるんじゃないか??!!



「ラッセル地獄」で奮闘するY



下山

尤もメンバーの IT 氏は、私と生年月日が全く同じだが、2022/4/29～5/5、尾瀬から越後駒まで大縦走した超超強者である。結局、今回の山は、「最初から最後まで、ワカンだった」

脚はパンパン。翌日の谷川岳は、「観光登山」で良かった。(笑い)